

食

植物工場 プラネットファーム

野菜に託す企業の輪

近年、密閉空間で野菜を栽培する植物工場が、県内で広がりを見せている。昨年10月に大宜味村で稼働した「おおきみファーム」(水上浩一社長)では、植物工場のシステム販売を提供するプラネットファーム(豊見城市、大林修一社長)が、「技術」も提案するユニークな取り組みを進めている。観葉植物の栽培・流通、壁面緑化などを手掛けるプラネットファームは、おおきみファームからの受注を皮切りに、植物工場のシステム販売を開始した。補助金で取り組むのは、「成分の実証」と「低コスト化」だ。工場内での水耕と土壌栽培の両方を提案する同社は、成分分析によりそれぞれに合う植物を模索。液肥の節約法や安価な光源を突き止め、生産者への提案力強化を目指す。



化学肥料を使わない工場内での土壌栽培

同社の友利一也営業統括部長は「私たちは植物に関する事業に関しては全てやりたい。夏場の葉野菜を具

外に頼らざるを得ない沖縄で、県産品の安定供給にも貢献できる」と意義を語る。「沖縄から本土へ、沖縄から海外へ」  
おおきみファームの年間生産能力はリーフレタスで約80万株あり、県内最大級。野菜の商品価値を高め、生産業者の販路拡大につなげる。

文・長嶺真輝  
写真・金良孝矢



プラネットファームの友利一也営業統括部長(手前)とおおきみファームの職員ら＝大宜味村のおおきみファーム